

国立公園は、日本を代表する優れた自然の風景を守り、私たちの次の世代へ残していくために、国が指定し保護・管理しているところで、令和4(2022)年現在、日本国内に34箇所あります。

日本の国立公園は、土地の所有に関わらず公園を指定できる地域性自然公園制度を採用しているため、国立公園内に住んでいる人も多く、人々の暮らしや産業などとの調整をしながら管理が行われています。保護の面でも利用の面でも多くの利害関係者がいることから、多様な主体の連携による「協働型管理運営」が重要となっています。

奄美群島国立公園は、「生命(いのち)にぎわう亜熱帯のシマ~森と海と島人(しまっぢゅ)の暮らし~」をテーマに、奄美群島各島の多様で豊かな生態系や人と自然の関わりを示す有形無形の文化景観などをその価値として、平成29(2017)年3月7日に34番目の国立公園として指定されました。その特徴を踏まえ、国立公園の保護管理は、多様な生態系について科学的データに基づいた順応的管理を行う「生態系管理」、人と自然の関わりの中で形成された風景や風土を国立公園の価値として位置づけ将来に守りついでいく「環境文化」という従来の国立公園にない新しい考え方に基づいています。これらの考え方のもと、地域とともに作り、地域にも貢献する国立公園を目指しています。

奄美群島国立公園の特徴

- 世界的に数少なく、国内では最大規模のスタジイなどを主とする亜熱帯照葉樹林
- 日本列島の形成過程を宿す奄美群島の地史を背景に生息・生育する固有動植物及び希少動植物
- 世界有数の速度で今も隆起するサンゴ礁段丘
- 琉球石灰岩の海食崖やカルスト地形
- 世界的北限に位置するサンゴ礁、マングローブや干潟、自然性の高い河川など
- 上記のような多様な生態系が複合的に一体となった自然景観
- 人と自然の関わりを示す有形無形の文化景観



亜熱帯照葉樹林が広がる湯湾岳 (奄美大島：標高694m)

アマミノクロウサギは、原始的な形態を残す、奄美大島と徳之島の固有種

暖かく透明度の高い海域ではサンゴが広がる(徳之島：畔海岸)

山と海の神様(稲霊)を招き、来年の稲の豊作を祈願する祭事、ショショガマ (奄美大島：国指定重要無形民俗文化財)

区分	概要
特別保護地区	公園の中で特にすぐれた自然景観、原始状態を保持している地区で、最も厳しく行為が規制されます。
第1種特別地域	特別保護地区に準ずる景観をもち、特別地域のうちで風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域。
第2種特別地域	農林漁業活動について、つとめて調整を図ることが必要な地域。
第3種特別地域	特別地域の中では風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、通常の農林漁業活動については規制の緩やかな地域。
海域公園地区	熱帯魚、サンゴ、海藻などの動植物によって特徴づけられる優れた海中の景観に加え、干潟、岩礁などの地形や、海鳥などの野生動物によって特徴づけられる優れた海上の景観を維持するための地区。
普通地域	特別地域や海域公園地区に含まれない地域で、風景の保護を図る地域。特別地域や海域公園地区と公園区域外との緩衝地域(バッファゾーン)。

[出典] 市町村界「国土数値情報(行政区域データ)」(国土交通省) https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46

・陰影 基盤地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成
 ・背景図 地理院タイル(淡色地図)

奄美群島国立公園

面積：陸域 42,196ha
 海域 33,082ha
 関係市町村名：
 奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町 (1市9町2村)

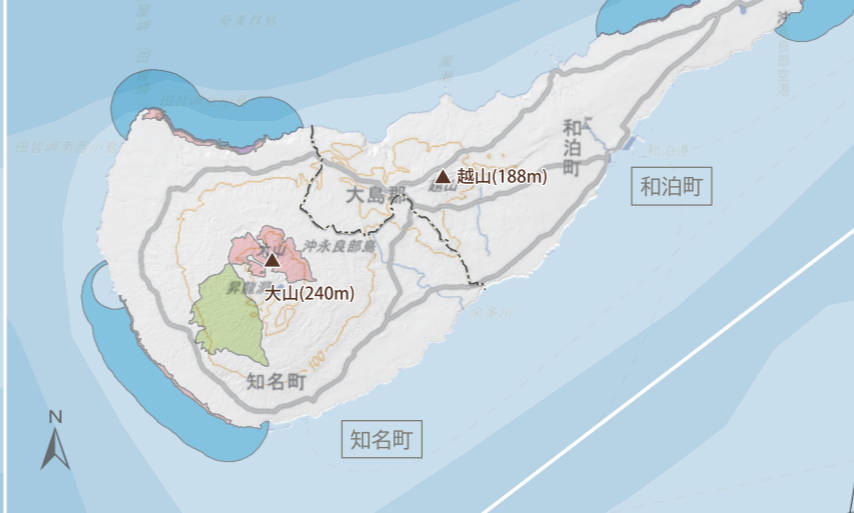
加計呂麻島 与論島 喜界島 奄美大島 徳之島 沖永良部島 与論島 沖縄本島

索引図

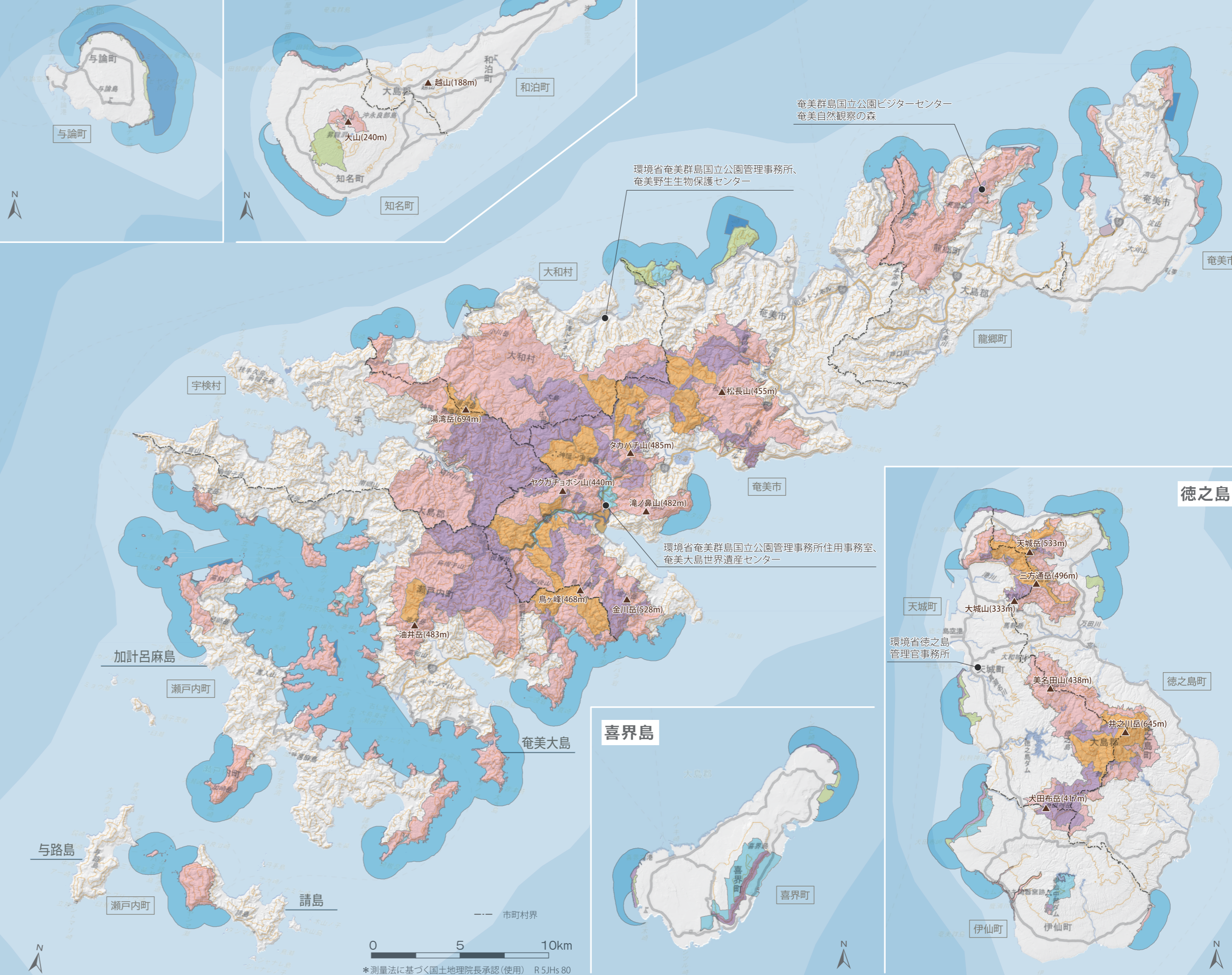
与論島



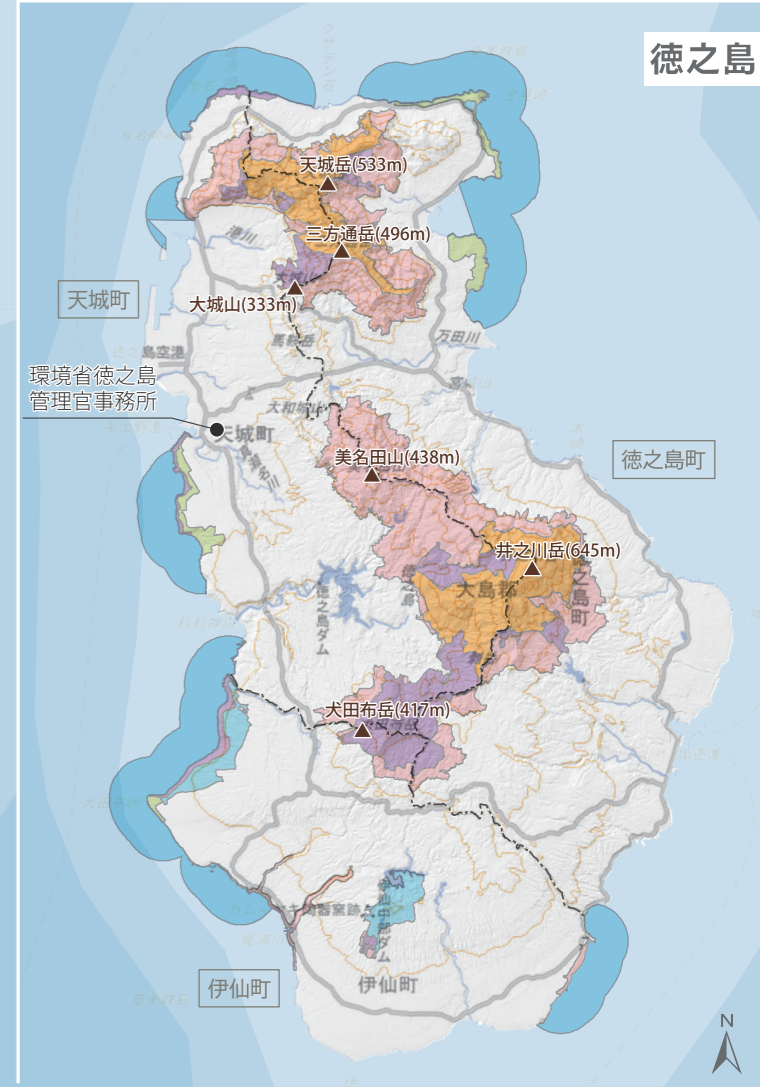
沖永良部島



奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島



徳之島



喜界島

